

# 院内小学校と小出小学校は、平成27年度の統合を目指します

## ◆これまでの経緯

平成21年2月に「にかほ市学校教育将来構想策定委員会」（委員長高橋昭夫氏）から市に小・中学校の統廃合などに関する提言書【①釜ヶ台小学校について②院内小学校・小出小学校について③象潟地域の小学校について④平沢小学校と院内小学校の学区について】が提出され、この提言書にある院内小学校・小出小学校の統合などの対応策を早急に計画する必要が生じたことから、平成23年7月に「院内小学校・小出小学校統合検討委員会」（委員長三浦彬氏）が発足されました。

委員会では、両校の統合などについて、仁賀保地域全戸にアンケート調査を行い、将来の仁賀保地域の小学校のあり方についても検討・協議を重ね、今年3月に提言書が市及び教育委員会に提出されました。

## ◆院内小学校・小出小学校統合検討委員会提言書の内容

◇院内小学校校舎は、築後46年が経過しており、老朽化対策と耐震化を早急に実施されることが望ましい。

◇これらのことから、院内小学校と小出小学校は平成27年4月に統合することとし、校舎建設を進めていただきたい。

平成26年度は小出小学校の複式学級を避ける手立てを講じていただきたい。

◇将来的には仁賀保地域の小学校は一つの小学校に統合されることが望ましい。院内小学校と小出小学校の統合計画の策定と併せ、平沢小学校が統合される時期等も計画していただきたい。

## ◆仁賀保地域の現状と見込み

仁賀保地域小学校の児童数の推移（現状と今後の見込み）は

仁賀保地域小学校児童数の推移表

学校名	項目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
平沢小学校	児童数（人）	407	385	389	387	377	347	353
	学級数（特学級含）	15	13	13	13	13	12	12
院内小学校	児童数（人）	172	160	158	138	130	133	125
	学級数（特学級含）	9	9	9	7	7	7	6
小出小学校	児童数（人）	70	67	65	55	52	37	32
	学級数（特学級含）	8	7	7	6	6	4	3

次表の通りです。

児童数の減少に歯止めが効かない状況のため、小出小学校では、平成26年度に1つの複式学級が発生し、平成29年度には学校全体が3つの複式学級になってしまうことが見込まれています。

## ◆児童数の減少に伴う小規模校の課題

- ①子どもの数が少なくなると教師が一人一人の子どもに、手厚く指導できるメリットはあるのですが、次のような課題があります。
- ①さまざまな考えを持つ子ども同士の触れ合いが少なく、社会性の育成が困難である。
- ②切磋琢磨する機会が少ないため、競争心や向上心が育ちにくい。
- ③体育の授業での球技や音楽での合唱・合奏など一定規模の集団を前提とした活動が困難である。

## 課題解決のための 市教育委員会の取組み

- ④話し合いで学習を行う場合、少人数のため多様な意見が出にくく、学習内容を深め、広げることが困難である。
- ⑤教員数が少なく、充実した教育活動・緊急時における子どもの安全確保・学校運営に支障が生じる。

## 仁賀保地域の 小学校の将来像

将来的に、仁賀保地域の小学校はひとつの小学校に統合されることが望ましいとの提言を実現するため、検討委員会が示した課題は次のとおりです。

- ①児童の遠距離通学等を考慮し、スクールバスなどの運行を検討
- ②通学に関わる安全対策を考慮し、場合によっては歩道の拡幅等の検討
- ③院内小学校と小出小学校の建設計画を策定する場合には、平沢小学校も統合されることを考慮した場所の選定
- ④建設場所の選定にあたっては、小・中学校教員、小・中学生の連携や交流が図りやすい場所の選定



▼院内小学校



▲小出小学校

平成27年度を目標に院内小学校と小出小学校の統合を行います。具体的には、院内小学校校舎の耐震化工事や改修工事等（体育館は耐震化済）を行い、小出小学校と統合します。

小出小学校の子どもの少子化のための統合であることから、統合で使用する校舎は院内小学校校舎を計画しています。

小出小学校も児童の安全確保及び今後の利活用を考慮して耐震化工事を行い、遊休施設とならないように努めます。

平成26年度に発生する小出小学校の複式学級については、非常勤講師等を採用して、1学年に1人の先生となるよう、複式学級の解消に努めます。

小規模校の課題解決のために統合するものです。



このことについて、質問、ご意見がある方は、教育委員会総務課までお問い合わせください。

☎38・2259